

ナルチス IV

あれがこちらを見てゐるのが  
うれしいのだ 私があれの方を  
見てゐるかぎり  
あれは私の方を向いてゐると思ふ

まばたきをしても 首をまげても  
あれは うれひを持つた目で  
見るのだ  
はじめての美しいもの

壁土をぬり込めるやうに  
自分の心の中に あれを  
ぬり込めたい

あれが離れて去るのなら  
私はさうさせないやうに飛びかかる  
私の手が構へるとあれもねらつてゐるやうだ